

琉球大学学術リポジトリ

琉球語那覇方言のduのとりたて性：
琉球諸語に係り結びはあるか

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2017-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: かりまた, しげひさ メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/36706

琉球語那覇方言の *du* のとりたて性

— 琉球諸語に係り結びはあるか —

かりまた しげひさ

1. はじめに

《文の対象的な内容》と現実の出来事に関係づける《陳述的なかわり》を表現するためのさまざまな文法的な手段がある。《とりたて》は、《陳述的なかわり》を表現する文法的な手段の一つである。《文の対象的な内容》として取り込まれたものごとが現実の場面に与えられているものごとに対してどのような関係にあるかを話し手の立場から表しわける必要があるとき、文の構成材料である単語にとりたて助詞を後接させて表現するのが《とりたて》であるⁱ。

《とりたて》は、とりたて助詞を単語に後接させることによって表現されるのだが、とりたて助詞は、それが前接している単語の表すものごとだけでなく、いくつかの単語の組み合わせの表すものごとをとりたてることもできる。とりたては、《文の対象的な内容》を構成する主語、補語、状況語、連用修飾語、述語などの文の部分をとりたてる。これらの文の部分は、1単語の場合もあるが、2単語以上の単語の組み合わせであることもあるし、連用修飾的な従属文、条件的な従属文、時間状況的な従属文、空間状況的な従属文などであることもあるⁱⁱ。

2. 那覇方言のとりたて助詞

記述文法 2009 にしたがって那覇方言のとりたて助詞を整理すると次表のようになるⁱⁱⁱ。

も (累加、極限、ぼかし)	N (累加、極限、ぼかし)
は (対比)	ja (対比)
なら (対比)	(jare: (対比))
こそ (限定)	du (限定)
だけ (限定)	daki (限定)
しか (限定)	—
ばかり (限定)	bike:N (限定)
さえ (極限)	sai, duN, Ncjo:N, (極限)
まで (極限)	madi (極限)
でも (極限、ぼかし)	(jatiN, jarawaN (極限))
	Nde: (ぼかし)
くらい (評価)	—

表1 現代日本語と那覇方言のとりたて助詞の対応

野原 1986 は、那覇方言の「du (ぞ)」「ja (は)」「ga (か)」「N (も)」「NcooN / cooN (さえ)」「duN (こそ)」「teemaN / teeN / teema (～しても)」を係助詞^vとし、「guree (ぐらい)」「nagara (ながら)」「bikaaN (ばかり)」「mari (まで)」「naa (ずつ)」「?atai (くらい)」「Nree (など、こそ)」を副助詞としている^v。野原 1986 には現代日本語では失われた古代語の係助詞「ぞ」「か」に相当する du (ぞ)、ga (か) も含まれている。その係助詞と副助詞の文中での意味と機能を検討すると、とりたて助詞である。

2.1 接続

那覇方言の du, ja, N は、名詞、動詞、形容詞、副詞、接続詞に後接し、主語、補語、状況語、連用修飾語、述語、独立語をとりたてる。名詞の格形式に後接するが、主格の ga, nu を含む全ての連用的な格助詞の後に後接する。この点は日本語とは異なる。

	ハダカ格	ga 格	nu 格	ni 格
ゼロ	cinu: (昨日)	?ja:-ga (おまえが)	Qcju-nu (人ガ)	me:-ni (前こ)
ja(は)	cinu:-ja (昨日は)	?ja:-ga: (おまえガハ)	Qcju-no: (人ガハ)	me:-ne: (前には)
N(も)	cinu:-N (昨日も)	?ja:-ga-N (おまえガモ)	Qcju-nu-N (人ガモ)	me:-ni-N (前こも)
du(ソ・こそ)	cinu:-du (昨日ソ)	?ja:-ga-du (おまえガノ)	Qcju-nu-du (人ガノ)	me:-ni-du (前こソ)

表2 格助詞ととりたて助詞の接続

動詞の連用形と条件形に後接するばあい、連用形と条件形の末尾に du, ja, N をそのまま後接させるが、終止形のばあい、完成相は第一中止形に du, ja, N を後接させて補助動詞 suN (する) を組み合わせた分析的な形式にする。継続相は第二中止形に du, ja, N を後接させて補助動詞 uN (いる) を組み合わせた分析的な形式にする。否定形は第一中止形に N を後接させて saN (しない) を組み合わせる^{vi}。

nudi (飲んで) nudi-du (飲んでこそ) nude: (飲んででは)
numuN (飲む) numi-du suru (飲みこそする) nume: suN (飲みはする)
nudo:N (飲んでいる) nudidu uru (飲んでこそいる) nude: uN (飲んでではいる)
numaN (飲まない) numiN saN (飲みもしない)

形容詞は sa 連用形と ku 連用形に du, ja, N を後接させて、?aN (ある)、ne:N (ない) を組み合わせた分析的な形式にする。述語名詞は、ハダカの形と繫詞 ja (だ) を組み合わせるのだが、述語名詞をとりたてるときは、ハダカの形に du, ja, N を後接させて繫詞 jaN (だ)、?araN (ではない) を組み合わせた分析的な形式にする。

takasaN (高い) takasa-du ?aru (高くこそある) takaku-N ne:N (高くもない)
 Qkwa jaN (子だ) Qkwa-du jaru (子なのだ) Qkwa-ja araN (子ではない)

3. du のとりたて性

森野崇 2003 は、「古代語の場合、特立のとりたての機能を持つ助詞として、強調を表すとされる「ぞ」「なむ」「こそ」が考えられる」としている。那覇方言には現代語と古代語の「こそ」、古代語の「なむ」に対応する助詞はないが、古代語の「ぞ」に対応する助詞 du がある。これまで野原 1986 などが係助詞としてきた du のとりたて性について検討する^{vii}。

次の 1) は、使用人同士が腕相撲をしているところに主人が現われ、何をしているのか問い詰められている場面で下男の一人の加那に対する発話である^{viii}。とりたてられているのは?ja: (おまえ) で、関係づけられているのはその場面の残りの使用人たちである。この du は、前接の?ja: (おまえ) をとりたてていて、現代日本語の排他的なガに相当する。述語には否定形に質問の接辞が接続していて、確認要求を表している。

2) では、述語がとりたてられている。とりたてられているのは、Qejunu muN tuiN (人の物を取る) であり、関係づけられているものごとは同一文中に与えられている Qejunu muNja nusumaN (人の物は盗まない) である。この例では、とりたてられと関係づけられが同じ文の中に与えられている。この du は排他を表している。

- 1) ?ja:ga-du kana:Nkai ?udi kakiraNdi ?icjano: ?arani? 芝 p.180
おまえが 加那に 腕を 掛けようと 言ったんじゃないか。
- 2) namakara: Qejunu muNja nusumaNgutu, tui-du suNdo:. 芝 p.158
 これからは 人の 物は 盗まないで、 取るんだよ。

次の 3) は、A の発話で物見に行ったかと聞かれ、単に「はい」とは言わないで、行ったことが当然であることを確認要求の文で表している。du は、前にある部分を焦点として特別にきわだたせて示す、現代日本語の特立の「こそ」と

同じ使われ方をしている。

3) A : ?ja:ja munumi si:ga ?Nzje: si:. 芝 p.22

お前は 物見を しに 行きは したか。

B : ?Nziagutu-du ke:ti cjo:e:sani.

行ったから-こそ 帰って 来たんだろう。

次の4) のB1は、A1の問いに対する答えで、B1全体が未知のできごとである。その中で特立させたい部分に du を後接させている。さらにA2の問いに対する答えB2の中で du が後接しているのは、連体修飾語を含む連体修飾節で、とりたてられている物事は未知であり、特に目立たせられて特立されている。A2の問いには nu: (何を) という疑問詞があり、B2はその疑問詞に対応する未知の情報に du を後接させている。

4) A1 : ?e:, ?iQta:ga cju:si-du macikaNti: so:siga, cju:si cju: nu:ga nu:

おい、お前たちが 来るのを 待ちかねているのに、今日という今日、
jaru ba:ga.

何なんだ。

B1 : ?anu tabiNcjunu ?ihu:na kutu-du tu:iNde:na:. 芝 p.52

あの 旅人が 妙な ことを 聞くんだよ。

A2 : nu:ga nu: tu:itaga.

なんだい、何を 聞いたの。

B2 : namakara nizju:guniNme: kunu muranu Qcjunu QcjuNkai kurusaQtasje:

今から 二十五年前 この 村の 人が 人に 殺されたのは

uraniNdi-du iNsje:Nde:na:.

いないのかって おっしゃるんですよ。

次の5) の例では先行の文が疑問詞質問文での問いがあり、それに答える形で諺の主題が述べられている。先行する文の疑問詞に答える部分に du が後接

している。du によるとりたてられは、文中に現れている?uciNkai (内に) である。疑問詞で問われたことに対して、特別にきわだたせて答えている。

6) には前提として「どんな木が曲がる」のかがあり、それに対する答えとして特定の特性をもった ki: (木) が提示されている。du によるとりたてられは、特定の特性をもった ki: (木) である。この du も特立を表している。

5) ?i:be: ma:Nkai u:ri:ga. ?i:be: ?uci-Nkai-du u:ri:ru. 諺042

指は どこに 折れるの。指は 内に 折れるのだ。)

6) ku:sainikara magairu ki:-nu-du magairu. 諺179

幼いころから 曲がる 木が 曲がるのだ。)

du は、前接の部分の特に目立たせて示す特立と、場面のなかに与えられた複数の候補の中から一つをとりたてて、他を排除する排他がある。排除されるものごとが同一文中に現れていることもあるし、場面に与えられることもある。なお、特立と排他を明確に区別することの難しいものも多い。

4. 文のモーダルなタイプと du

文のモーダルなタイプによって du の現れる文と現れない文がある。du は、断定文と推量文と肯否質問文に現れる。いっぽう、命令文と疑問詞質問文には du が現れない。

4.1 断定文

断定文に du が現れるとき、述語に強調形の現れる断定文と断定形およびそれ以外の形式の述語の現れる断定文がある。強調形を述語にもつ文を強調文とよぶ。連体形と同音形式の強調形が du と共起して現れることから、那覇方言に係り結びがあると言われてきた。

7) jo:minu ?agunu-du, nugiti ?iciuru. nugi:ru muno: nugaci jarasje:. 芝 p.92

弱みが 有るから-こそ 逃げていくのだ。逃げる 者は 逃がして やれ。

- 8) nu:Ndi ?iciN wa-ga-du waQsaibi:ru. ?anu tucinu kutu kaNge:ine:
 なんと 言っても 私が 悪いのです。あの 時の 事を 考えると
 ?uturusanu naibiraN. 芝 p.64
 恐ろしくて なりません。
- 9) ?e:kiNcjuN nu:N ?araNro:na:. ?ataime:nu harusa:-du jaru. 芝 P.30
 金持ちでも 何でも ないよ。 普通の 百姓なんだ。
- 10) kuNziaNute: icigami-ga jara nu:ga jara wakaraNsiga, kumauto:te: Qcjukurusa:
 国頭では 生き神だか 何だか 分からないが ここでは 人殺し
hwe:re:-du jaru. 芝 p.82
追剥だ。

文中に du があっても述語に強調形以外の形式の現れる文がある。

- 11) wa:ga mi:kara N:zi:ne: ?ja:-ga-du hwe:re: nati mi:N-re:. 芝 P.46
 俺の 目から 見ると、おまえが/こそ 追剥に みえるぜ。
- 12) kutuni ?ja:ja mi:?iri-du jaNdo:. 芝 p.188
 殊に お前は 新入りなんだぞ。
- 13) gumanusudugwa: susi-ga-du ?ato: maginusudu naiNdo:. 芝 p.154
小さな泥棒を するのが 後は 大きな泥棒に なるんだよ。
- 14) ka:ge: nu:nu guto:Nre: ?umuiga. nio:butuki-Nkai-du nicjo:sa. 芝 p.
 容姿は 何の ようだと おもう？ 仁王像に 似ているぜ。
- 15) na: simusigaNdi ?umuisiga zjamazjama: ne:raN ?Nmariti-du cju:rumuNnu.
 もう いいと 思うんだが、きりも なく 生まれて 来るんだもの。
- 16) ?anu tucje: waNne: nusuduNdi umutagutu-du jasai. 芝 p.156
 あの 時は 俺は 泥棒だと 思ったからなんだよ。
- 17) ?ataime:nu hjakusjo:ja ?araN. suiija to:nukuranu sakumape:ciNnu
 普通の 百姓では ない。 首里は 当蔵の 佐久間親方の
sudatiNgwa-du jaNdo:na:.
育ての子 なんだよ。

4.2 推量文

推量文に現れる **du** は、推量の対象を特立して目立たせる。推量文の述語は、**du** の有無にかかわらず、連体形に形式名詞 **hazi** をくみあわせる合成述語の **hazi** 推量形が現れる。強調形は現れない。

18) kaNsi ?icjaisiN nu:gananu iNnu ?ati-du jaru hazi. 芝 p.44

こうやって 出会うのも 何かの 縁が あったのだろう。

19) ?ja:ne: kana:raNgutu ?aNsi-du tataN hazi. 芝 p.80

お前には 敵わないから、それで 立たないのだろう。

4.3 質問文

質問文には肯否質問文と疑問詞質問文がある。肯否質問文には **du** が現れるが、疑問詞質問文には **du** は現れない。

肯否質問文では、いくつかある可能性のあるものの中から話し手が確認したいものごとを表す部分に **du** を後接させて特立する。確認したい内容に関する手がかりが先行する場面に与えられている。これまでの調査で過去の出来事をたずねる肯否質問文の述語に強調形を確認できていない。

du 有の非過去の肯否質問文

肯否質問・非過去形には、断定・非過去形に終助詞 **na:** を後接させた形と断定形の末尾の **N** を **mi** に替えた形とがある。**du** をふくむ肯否質問文には、強調形に質問の意の接辞 **-i** をつけた形が現れる。以下の例は、話し手の不確かな判断を聞き手に確認している。

20) su: na:ja cimaju:ti-du urui? 芝 p.84

父さん、貴方は 血迷って いるのですか。

21) ?abija: ?abija:ja sunake:. ?ja:ja sinibusa-du ?arui. 芝 p.34

つべこべ 言うな。 お前は 死にたいのか。

22) kamizja:, ?ja:ja ?aNsi-du sima: turui. 芝 p.184

亀千代、お前は そうやって 相撲は とるのか。

23) ?ja:ja kurusaQtaru Qcjuto: iNnu ?ai-du surui. 芝 p.60

お前は 殺された 人とは 縁が あるのか。

24) hikazimuN naja:i ?iQsjo: sabisiku kuraci-du ?icjurui. 芝 p.116

日陰者に なって 一生 寂しく 暮らして 行くのか。

25) ?aNma:, nu:ga. na:ja naci-du urui? 芝 p.164

おばさん、どうしたの。貴方は 泣いているの？

26) ?ja:ja waNni kurusaQtaru Qcjunu Okwa-du jarui. 芝 p.58

おまえは 私に 殺された 人の 子なのか。

du 有の過去の肯否質問文

肯否質問・過去形には断定・過去形に終助詞 na:を後接させた形と中止形の語末の母音を長母音にした形とがある。du を含む質問文に両方の形式が現れるが、強調形は現れていない。

27) ?agizjabijo:, misigara-du jati:. 芝 p.44

おやまあ、文無だったのか。

28) na:ja ?uNnu waQsate:sa. ?aNsi nu:gana turani-du siNso:ci. 芝 p.42.

おまえは 運が 悪かったんだ。それで、何か 取られたんですか。

29) ?anu tucinu hwe:re:ja na:-du jaNsjc:taNna:. 芝 p.90

あの 時の 追剥は 貴方 だったんですか。

30) ?unu QcjuN hwe:re:-du jataNna: ?

その 人も 追剥だったの？ 芝 p. 90

31) hakisamijo:. waN uto: ?ja:ga-du kurucjaNja:. 芝 p.54

何だって！ 私の 夫は お前が 殺したんだな。

疑問詞質問文

疑問詞質問文は、疑問詞によって焦点化（特立）されているので、疑問詞質問文には特立を表す du が現われない。

32) ?ja:ga ?udurukacjaru ?unu tabiniN ma:-Nkai ?icjutaga. 芝 p.38

お前が 驚かせた その 旅人、 どっちに 行ったんだ。

33) nu:-nu ?uraminu ?ati waQta: su: kurucjaga? 芝 p.56

何の 恨みが あって うちの 父を 殺したんだ？

4.4 確認要求

否定形に質問の意を表す i を後接させた形式を述語にもつ文と ra 推量形を述語に持つ文は、確認要求を表す。前者の文は確認したいものごとを du で特立させてとりたてる。

34) ?ja:ja zuri-du jae:sani. 芝 p.102

お前は 女郎なんだろう？

35) kamizja:, ?ja:ja ?aNsi-du sima: turui. ?ja: muno: sina-du

亀千代、お前は そうやって 相撲を とるのか。お前のは 砂を

kwa:cjo:e:sani. 芝 p.184

食わせているんじゃないか。

na:ga ?aNsukana: ho:igutute:ja:.

貴方が そんな風に 這うからだよ。

ho:te: uraN. kuNpati-du ue:sani.

這っては いない。踏ん張っているんじゃないか。

36) ?ja:-ga-du kana:Nkai ?udi kakiraNdi ?icjano: ?arani? 芝 p.180

おまえが 加那に 腕を 掛けようと 言ったんじゃないか。

37) hakisamijo:.. waN uto: ?ja:-ga-du kurucjaNja:. 芝 p.54

何だって! 私の 夫は おまえが 殺したんだな。

4.3 疑い文

とりたて助詞の ga の現れる疑い文と、du の現れる疑い文がある。前者は特立してとりたてたい部分に ga を後接させ、述語を推量形にする。後者は接辞

gaja のついた形式を述語にする。

38) na:N siNdo:deNna:. ?aNsugutu cja:si-ga simura. 芝 p.42

あなたも 大変ですね。 そうなんだ、どうしたら いいんだろう。

39) ?aNma:, nu:ga. na:ja naci-du urui? wa:ga munu?i:jo:-nu-du waQsa-du
?atagaja:.

おばさん、何故。 貴方は 泣いているのですか。 私の 言い方が 悪かったのかな。

芝 p.164

内間 1985 は、疑い文に現れるとりたて助詞 ga に伴って ra 推量形が述語に現れることから、ga を係助詞とみなし、係り結びがあるとしたが、ra 推量形は、ga を含まない確認要求の文にも現れる。ga は ra 推量形を述語にもつ疑い文に現れて不確定の部分に焦点をあてるが、ra 推量形を支配しているわけではない。

40) kumu ziNbukuro: su: muNja:. su:. kucisaNse:taraja:. 芝 p.70

この 錢袋は 父の ものか。 とうさん。 くやしかっただろう。

4.5 命令文

命令文には du が現れないが、命令文を主文にもつ条件的な従属文には du が現れる。

41) kumu huzi: nusuraja ?ucikurusiwa-du so: ?i:gutu, na:hiN taQkuruse:. 芝 p.152

この ような 盗人は 打ち殺せば 性根は 入るから、もっと 叩き殺せ。

42) kure: cjuni misite: naraNgutu Ncje: kwiNso:Nnake:ja. 芝 p.32

これは 人に 見せては いけないから 見ては くださいますな。

cjumi N:zjuru daki-du jagutu, misiti kwiNso:re:.

一目 見る だけだから、 見せて くださいます。

4.6 複文の従属文

原因的な従属文の述語に *du* が後接して、主文の出来事が成立するための原因を特立してとりたてる。

- 43) *jo:mi-nu ?agutu-du nugiti ?icjuru. nugiru muno: nugaci jarasje.* 芝 p.92
弱みが 有るからこそ 逃げていくのだ。逃げる 者は 逃がして やれ。
- 44) *?ja:-ga-du jurucje: naraNdi ?icjagutu-du ?aNsumiNdi ?ija:ni*
おまえが 許しては ならないと 言ったからこそ そうするかと 言って
kuma-madi ?u:ti cjano: ?arani. 芝 p.156
ここまで 追って 来たんじゃないか。
- 45) *waNne: cimi hari:gaNdi ?ici-du cjo:gutu ?iNro: saNgutu*
私は 罪を 晴らそうと いって 来ているから 遠慮は しないで
?uQci turasi. 芝 p.80
討って くれ。
- 46) *cjaNguto:ru diQsinuN simi:Ndici-du ?umutasiga, kunu jo:na sainaN ?atati*
どんな 立身も させようと 思ったが この ような 災難こ あって
siguku zaNniN. 芝 p.140
すごく 残念。
- 47) *?udaNnano: kunihja: kamizja:-du kanasa so:misje:gutu, inu ziniNgwanu*
お旦那様は こいつ 亀千代を 可愛がっていらっしゃるから、 同じ 下男が
cja:si jamirasuga. 芝 p.176
どうやって 辞めさせるんだ。
- 48) *?Nzjagutu-du ke:ti cjo:e:sani.* 芝 p.22
行ったから-こそ 帰って 来たんだろう。

4.7 *du* 無しの強調文

強調形は、*du* をふくまない強調の断定文にも疑問詞質問文の述語にも現れる。

- 49) ?aga: ?aga:. jananijsje:gwa: ?aNsi gaNzju:muN jate:ru. 芝 P.36
痛てて。 青二才 なんて 強情なんだ。
- 50) na:ja ?aNsi ?ihu:na Qcju jaNsje:ru. 芝 P.32
貴方は なんて 変な 人で いらっしゃるのだ。
- 51) waQta: su:ga kurusari:ga de:biru? 芝 P.78
うちの 父が 殺されに ですって?
- 52) su:ja kakugunu ?wi:ni nanui?Nzitaru. 芝 P.86
父は 覚悟の 上で 名乗り出たのだ。

疑問詞質問文は、語尾に ga を含む専用の述語形式が義務的に使用されるが、以下の文には疑問詞があるにも関わらず、専用形式ではなく、強調形が述語に使用されている。最初の2例に質問の意図はなく、意味的には命令を表している二次的な質問文である。3例目は、「当てになんかしない」という逆説的な意味の文である。4例目は百姓が立派な刀を持っていることに対する驚きが表されている。

- 53) tate:. nu:ga tataN ?aru. 芝 P.80
立て。何故 立たないんだ。
- 54) to: waQta: su: kurucjaN ne:si taQci mani. nuga tataN anu. 芝 P.72
さあ、うちの 父を 殺した ように 立って 見ろ。何故 立たないんだ。
- 55) nu:ga ?ja: mo:ki tarugaki:ru. 芝 P.38
何故 お前の 儲けを 当てにするんだ。
- 56) nu:ga na:ja hjakusjo:nu ?uri muQcjo:ru. 芝 P.30
何故 貴方は 百姓が それを 持っているんだ。

4.8 小括

断定文に du が現れるとき、強調形が述語になることから、那覇方言を含む沖縄方言に係り結びがあるともいわれてきた。しかし、du があっても強調形以外の形式を述語にもつ断定文も多くみられる。述語が強調形であってもなく

ても、du は特立と排他を表す。推量文と確認要求文と疑い文の du は、特立を表すが、それぞれのモダリティを表す形式が述語になっていて、強調形は現れない。なお、du を含まない疑い文もある。

肯否質問文のばあい、話し手の不確かな判断を指し示す部分に du を後接させて特立してとりたてる。非過去形を述語にもつ肯否質問文は、強調形に接辞 i を後接させた形式が現れるが、過去形を述語にもつ肯否質問文には強調形は現れない。

疑問詞質問文と命令文には du が現れない¹³。強調形は du を含まない文にも現れる。

前接の部分をとりにて特立、排他を表す du は、さまざまなモダリティを表す文に現れる。du の有無に関わらずそれらの文にモーダルな意味に大きな変化はない。du が複数のモダリティを表す文に現れるのは、特立、排他の意味を表す du と文のモーダルな意味を表現する述語形式とが独立しているからであり、とりたて助詞 du が文末の述語の形式を支配しているとはいえない。那覇方言で多様な述語形式を持つ文に=du が現れるのは、かかる力のよわまりという歴史的な変化の結果ではなく、特立を表す du の必然である。

かりまた 2011 では、今帰仁方言、那覇方言、平良下里方言、石垣四箇方言のとりたて助詞が文末の述語形式を支配していないことを形式面から述べたが、那覇方言のとりたて助詞 du が文末の述語形式を支配していないことを du の意味と文のモダリティの面から述べたのが本稿である。

かりまた 2011 でも述べたが、那覇方言、今帰仁方言のうたがい文に ga が、今帰仁方言の ra 推量形を述語にもつおしはかり文に kuse: が、平良方言の肯否質問文に nu が、おなじく疑問詞質問文に ga があらわれるなど、文の通達的なタイプととりたて助詞との間にむすびつきがみられないわけではない。話し手の立場から文の部分をとりにたてるとき、文の通達的なタイプの違いに応じて特定のとりたて助詞が選択される。とりたて助詞の有無も、とりたて助詞の選択も文の通達的なタイプによって決定されるのである。特定の助詞が文のモーダルな意味の表現を担う文末の述語形式を支配することを係り結びというなら、du や ga を係助詞とみることはできない。

宮古平良下里方言で疑問詞質問文に *ga* が現れ、その *ga* が宮古上野野原方言と石垣四箇方言で *du* に置き換えられるのも、下里方言や伊良部島伊良部方言の肯否質問文の *nu* と *ru* が他の方言で *du* に置き換えられているのも、推量文に現れる今婦仁方言のとりたて助詞 *kuse* が他の方言で *du* に置き換えられるのも、*du*、*ga*、*nu*、*ru*、*kuse* 等のとりたて助詞が特立を表すという点で共通するからである。宮古語の複数の下位方言で論じた間接疑問文内で *ga* が *du* に置き換えられるのも同じ理由による。*ga* の係る力の弱まりではない。

本研究は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」、「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」、および科学研究費基盤研究（A）24242014 による研究成果の一部である。

参考文献

- かりまたしげひさ 2011 「琉球方言の焦点化助辞と文の通達的なタイプ」『日本語の研究』第7巻4号、日本語学会、pp69-81
- 近藤泰弘 2003 「とりたての体系の歴史的变化」沼田善子・野田尚史編『日本語のとりたて—現代語と歴史的变化・地理的変異』pp.243-256、くろしお出版
- 佐藤里美 2007 「文のくみたて—『小学生のためのにつぼんご』第3章解説—」教科研国語部会小原集会報告テキスト
- 鈴木重幸 1972 『日本語文法形態論』むぎ書房
- 野原三義 1986 『琉球方言助詞の研究』武蔵野書院
- 沼田善子 2003 「現代語のとりたての体系」沼田善子・野田尚史編『日本語のとりたて—現代語と歴史的变化・地理的変異』pp.225-242、くろしお出版
- 沼田善子 2000 「とりたて」『時・否定と取り立て 日本語の文法2』pp. 151-216、岩波書店
- 野田尚史 2015a 「日本語とスペイン語のとりたて表現の意味体系」『日本語文法』15-2
- 野田尚史 2015b 「世界の言語研究に貢献できる日本語文法研究とその可能性—「す

る」言語と「なる」言語、高コンテキスト言語と低コンテキスト言語の再検討を中心に」 益岡隆志（編）『日本語研究とその可能性』pp.106-132、開拓社

野田尚史 2003「現代語の特立のとりたて」 沼田善子・野田尚史編『日本語のとりたてー現代語と歴史的变化・地理的変異』pp.3-22、くろしお出版

森野崇 2003「特立のとりたての歴史的变化ー中世以前ー」 沼田善子・野田尚史編『日本語のとりたてー現代語と歴史的变化・地理的変異』pp.23-43、くろしお出版

-
- i 日本語記述文法研究会 2009 は、とりたてを「文のある要素をきわだたせ、同類の要素との関係を背景にして、特別な意味を加えること」と定義し、沼田善子 2000 は、「文中の種々な要素をとりたて、これとこれに対する他者との関係を示す」ものと定義している。
- ii 記述文法 2009 は、とりたてられる「要素」を「格成分、副詞的成分、述語、節などさまざまである」（p.3）としている。
- iii 用例は、沖縄言語研究センター編 1994『那覇の方言ー那覇市方言記録保存調査Ⅲ 沖縄言語研究センター研究報告』の沖縄芝居の脚本の例を使用する。同書には「多幸山」「くちなしの花」の2本の脚本が収録されている。台詞をすべて沖縄方言でかたる沖縄芝居の俳優であった真喜志康忠（那覇市生まれ。1923-2011）が琉球大学の琉球方言学特講等の講義で語った台詞を受講生が文字化し、ルビ付きの漢字仮名混じり文と日本語訳、音声記号、注などを付してテキスト化したものの一部を活字化したものである。
- iv 野原 1986 の係助詞「teemaN/teeN/teema（～しても）」と副助詞「nagara（ながら）」は、動詞活用語尾ににしか接続せず、動詞語尾とみなすことのできるものも含まれる。
- v 野原三義 1986 は、琉球諸語の助詞について、その歴史の変遷過程も含めて、最も包括的な記述研究で、琉球諸語の助詞を係助詞、副助詞、終助詞、間投助詞に分類しているが、「とりたて助詞」、あるいは、「とりたて詞」などの述語を使用しておらず、とりたてについて言及していない。
- vi 否定形は第一中止形に du, ja を後接させた分析的なとりたて形式が否定形に可能か

は未確認。

vii 沼田 2000.p.158 は、「とりたて詞がとりたててる文中の要素を「自者」とし、「それに端的に対比される自者以外の要素」を「他者」としている。記述文法 2009 のいう「文のある要素」が自者であり、「同類の要素」が他者である。沼田 2000 は、とりたて詞の表す関係的な意味として、主張と含み、肯定と否定を取り出している「主張および含みにおける自者・他者に対する肯定・否定などは、ある事柄に対して、話し手がそれを真または偽として断定するものであった。しかし、とりたて詞のあらわす意味には、真偽を断定せず、話し手や聞き手の自者・他者に対する想定をあらわすものがある。」「主張および含みにおける自者・他者に対する肯定・否定などは、ある事柄に対して、話し手がそれを真または偽として断定する」ものである。自者－肯定を断定し、他者－否定を断定している。

viii 用例は、沖縄芝居の脚本と諺集の例を使用する。

ix 那覇方言の疑問詞質問文には、特立を表す *du* が現れないが、宮古語平良下里方言では特立を表す *ga* が、八重山語石垣四箇方言では *du* が疑問詞に後接する。下里方言と四箇方言のばあい、特立させたい疑問詞だから *ga* や *du* を後接されるのだろう。